

原子力規制委員会委員長  
田中 俊一 様

## 1月16日の話し合いを踏まえた川内原発と高浜原発に関する緊急申し入れ

原子力規制委員会・規制庁と私たちとの1月16日の話し合いは非常に実り大きいものでした。そこで明らかになったことを踏まえ、緊急に以下の内容を申入れます。真摯にご検討くださるようお願い申し上げます。

1. 原子力安全基盤機構JNESによる「M6.5の横ずれ断層による震源近傍で1340ガルの地震動」(図1)を「震源を特定せず策定する地震動」に取り入れてください。そのため、JNESの断層モデルの妥当性および地震観測記録の欠落を補完するための断層モデル等による地震動評価法について原子力規制委員会で検討してください。

(説明) 1月16日の話し合いでは、1340ガルの地震動について、次のことが明らかになりました。

(1)原子力安全基盤機構JNESによる「M6.0の縦ずれ断層による地震動評価結果の最大値」と北海道留萌支庁南部地震の観測記録とは大体合っており、地元説明会やパブコメでの回答で「(JNESのモデルでは) 厳しい条件を設定」していると指摘したのは「書きすぎている可能性がある」。

(2)1340ガルの地震動評価は「超過確率を算出するために行った仮想的なモデルによる試算だから適用しない。」といいながら、「実際の発電所の評価などに適用すべきかどうか、地震のモデルとしての再現性という点で妥当かどうかを専門家も含めて改めて検討する必要がある。」

(3)「(JNESの) 計算のモデル自体ではなくて、ここで出てきた超過確率自体が妥当かどうか、実際に現実とどのぐらい合っているかは正直に言って良くわからない。そういうこともあるので、確率論的な評価は日本では適用ができていない。」

(4)「地震動評価全体としての学術的な知見の蓄積とそれ自体の見直しみたいなやつというのはトータルでやっぱりどこかでやる必要はある。」

要するに、JNESによる地震動評価結果が留萌地震の観測記録と良く合っていることから、JNESのモデルが「仮想的モデル」によるとしても、その基準地

震動への適用可能性について専門家を含めて改めて検討すべきであることが明らかになったのです。

「震源を特定せず策定する地震動」で検討対象にしている16の地震観測記録はここ十数年のものにすぎず、決定的に不足しており、それを補うためにはJNESの地震動評価結果を検討対象に入れるべきです。そもそも「震源を特定せず策定する地震動」では所在不明の伏在断層を対象にしており、震源断層を原発ごとに設定できないため「仮想モデル」になるのは当然です。「仮想モデル」だからという理由でJNESの地震動評価結果を無視するのは原子力規制委員会の良識が疑われます。

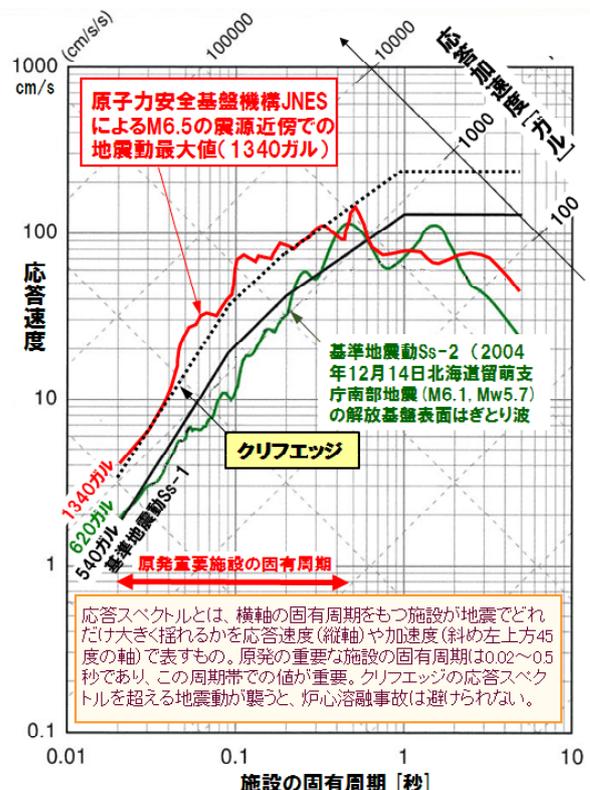


図1. 川内原発の基準地震動Ss-1(黒実線)とSs-2(緑波線)、クリフエッジ(黒点線:1号1004ガル、2号1020ガル)、「1340ガルのM6.5の直下地震」(赤波線)などの応答スペクトル

2. 川内原発の運用期間中に始良カルデラ噴火の可能性が万が一にでもある以上、九州電力の示した「始良カルデラに関する監視体制の移行判断基準(案)」の承認を取り消し、審査書を撤回して下さい。その上で、カルデラ噴火のデータを蓄積し、5年以上の余裕をもって原子炉停止・燃料搬出ができると保証できるまで、設置許可を出さないで下さい。(説明) 1月16日の話し合いでは、始良カルデラ噴火について、次のことが明らかになりました。

(1)九州電力の示した「始良カルデラに関する監視体制の移行判断基準(案)」において、地殻変動が通常の5～10倍になった時点でカルデラの活動だと判断されれば「対処準備・燃料体等の搬出等」で対応することになっているが、その時点で「60年以上の余裕がある」との九州電力の主張については、規制委員会として「評価していない。」「60年以上余裕があるかどうかはわからない。」

(2)九州電力の判断基準とは別に、「もっと早い段階で、マグマ供給率が変化してきた段階で、止めたり、燃料体を搬出していく」必要があり、「原子力規制委員会としても、ある程度の変化が観測された場合には運転停止命令を出したり、規制側からのアクションが必要だ。」「まず、事業者が対応するが、規制委員会としても必要な命令は出していく。」運転停止命令を出す時点で「5年の余裕があるか」という具体的な数字での判断はしていない。」

(3)「マグマ供給率の変化がいくつになったら運転停止命令を出すとか、具体的な数字を規則として決めてしまうと、もっと早い段階から止めるべきものを見逃したりしてしまう可能性もあるので、そのときの状況に応じて判断していく必要がある。」

(4)「原子力規制委員会からどういうアクションを起こすかということについては、火山モニタリングチームで検討していく。」

結局、「始良カルデラ噴火の可能性は十分小さい」と判断しながら、運用期間中の噴火の可能性が残るため、モニタリングを行うけれども、九州電力の判断基準(=地殻変動が5～10倍になった時点で噴火まで60年以上の余裕がある)は甘すぎることで、規制委員会として九州電力より早い段階で予兆かどうかを判断して運転停止命令を出すこと、しかし、その

判断基準は現存せず、これから検討していくこと、しかも、運転停止命令を出す時点で5年の余裕があるかどうかは分からないことが明らかになったのです。

にもかかわらず、原子力規制委員会は、九州電力の「始良カルデラに関する監視体制の移行判断基準(案)」の訂正を求めず、基本設計をそのまま了承し、保安規定の中にもそのまま書き込むことを黙認しようとしています。これとは別に、原子力規制委員会として「もう少し早い段階で運転停止命令などを検討していく」としていますが、その判断基準は存在せず、あらかじめ決めることもせず、運転停止命令を出してから燃料搬出までに必要な5年以上の余裕が噴火までにあるかどうか分からないというのでは、カルデラ噴火への対応方針はないのと同じです。「噴火対応の第一義的責任は九州電力にある」というのであれば、甘すぎると判断した「始良カルデラに関する監視体制の移行判断基準(案)」の訂正を求めるべきです。そうしないのは、原子力規制委員会にも噴火対応の方針がなく、「できない」からです。この方針を作るには時間がかかりすぎ、いつまで経っても再稼働できないから、とりあえず、川内原発を再稼働可能な状態にして、その安全は保証せず、地元には詳しく知らせず、再稼働が承認されるかどうかの判断には関与せず、噴火対応を別途検討していくというのが原子力規制委員会の今、現に取っている対応だと言えるのではないのでしょうか。これでは、良識ある火山学者から一層批判され、国民の信頼がますます遠のくのは必至でしょう。

また、1340ガルの地震動を無視し、始良カルデラ噴火への無方針状態を棚上げにして川内原発等に設置許可を出すのは、原子力安全・保安院がプルサーマル計画を進めるために福島第一原発3号炉のバックチェックで貞観津波の評価を棚上げにしたのと全く同じです。今回は、原発再稼働を容認するためにこれらの問題を棚上げにするのでしょうか。

3. 田中委員長が鹿児島県民や薩摩川内市民に直接、川内原発の審査書を説明し、地元住民の疑問に教えてください。

(説明) 田中委員長は11月5日の記者会見で、「(始良カルデラ噴火の)3ヶ月前ということが分かれば、3



南フォーラム平和・人権・環境、環境フォーラム市民の会（豊中）、日本消費者連盟関西グループ、小西妙子、高井千彰、小川亮、色見勝徳、白木原雄、乾 清之、戸田寛、戸田 剛、田辺秀作、寺西久雄、松野尾かおる、高橋もと子、中井かをり、前田由隆、長沢啓行、長沢由美、久保きよ子、久保良夫、定森和枝、山崎清、稲岡美奈子、稲岡宏蔵、猪又雅子、原 三郎、三田宜充、三田恭子、金澤知成、黒石昌朗、太田陽子、森田悦子、曾我部玲子、中野陽子、須波あゆみ、柳内ちよ子、花立和代、足立須香、山口直子、立花善子、陰山みどり、八瀬宗子、高木永貢子、上松治美、桃田恵子、寺西久子、中井久子、中井のどか、北川芳美、野澤八千代、田中一成、木村英生、山本ゆき、木村洋子、康 由美、長澤民衣、富士野佐和子、大山裕喜子、山本次子、陶山喜代子、岸上知三、中沢浩二、中山一郎、服部良一、中澤和子、三好龍孝、荒木淳子、土代 武、出来秀人、堀田雅代、松尾哲郎、山田 肇、瀧石雄介、中野晴久、平見 毅、山本光子、松尾和子、奥村剛子、重松信子、林田 史、春木博美、中野正史、門林洋子、山崎憲成、坂元千賀子、遠藤慎夫、北阪英一、疋田真紀、鎮西節子、山本英子、東野セツ、木下佳子、松永節、松本郁夫、鴨井憲雄、鎌橋照子、三輪佳子、胡桃沢伸、永田洋子、相川直美、杉村尚子、石川豊子、福井 浩、山下慶喜、房本晃、三上一子、秋山佳世、宗博文、春日直樹、黒石昌朗、川嶋澄夫、山口喜彦、古橋雅夫、増田直美、黒河内繁美、黒河内正行、山崎一典、衛藤ますみ、田中 徹、仰木 明、堀本フミ子、永久睦子、鈴木隆史、大森正子、難波希美子、水野和子、牛田 等、向井千晃、畑 章夫、増田京子、鈴木くみ子、滝沢厚子、山口光枝、森本良子、松田耕典、大伴一人、杉村ルミ子、池田春海、大野ひろ子、八木 稔、平松清司、平松重美、藤谷卓志、藤谷悦子、竹本明代、武慎太郎、美佐田和之、平尾貞之、若本洋子、花木弘子、森 由子、森 賀代、今木誠造、富田洋香、富田茂樹、稗田 滋、大石恵子、田中たけよし、吉田美恵子、野口たい子、高木宏子、鈴木めぐみ、林田 史、和田幸子、村上ひとみ、井上和歌、吉井正代、山崎隆生、北村純男、稲村隆生、稲垣一美、大畑喜一郎、佐野米子、佐野正文、斎藤直樹、斎藤英美子、韓基大、寺澤亘、黒田雅一、橋野高明、米澤興治、樋口多佳子、野口紀恵、野口嘉孝、矢歌淳子、春日久美子、松田幹雄、山下恵江、吉田武司、山崎一典、富田毅、黒川敬子、新家智子、安井賢二、河内谷収、糸賀孝子、岡本稔子、中島直子、山口広、本木達雄、甲斐扶佐義

[兵庫] 原発の危険性を考える宝塚の会、さよならウラン連絡会、安全食品連絡会、鈴蘭台食品公害セミナー、現代を問う会、神戸YWCA平和活動部、さよなら原発神戸アクション、原発をなくそう芦屋連絡会、建部 暹、喜岡笙子、北川れん子、喜多康夫、高橋智子、竹本衣江、富樫章、振津かつみ、中川慶子、奥田 亮、北田万寿夫、田中章子、井上正弘、稲垣清美、辰野純子、山崎昌子、梶原義行、中井 忠、森 妙子、小林まゆみ、津村富代、寺西清、味村良雄、北川 諭、小谷美智子、立間節子、石田加代、中村雅子、板垣正行、中原一栄、丸尾牧、木村英子、赤塚弘美、今井和雄、松原康彦、八木和美、村田三郎、井上保子、村上玲子、高橋武三、大野真千子

[奈良] 奈良脱原発ネットワーク、反原発奈良教職員の会、さよなら原発北葛の会、さよなら原発生駒、川崎寛子、田中正和、岩佐元春、梅谷敦子、加藤義明、金丸知

佳、井上智絵、三宅恵子、野澤七雄、足立嘉代子、菅原絃美、松尾富雄、榎本恭一郎、旭 幸美、平岡敏幸、野口夏紀、山本万知、窪田義廣、中村優衣、山口花織、西林紗紀、大川雅博、辻和将、篠原章二、村橋香美、坂下智子、若松未来、橋本 繁、保浦公夫、堀田美恵子、住吉純子、中西克至、上島 博、二階堂裕之、熊谷千栄子、見田暎子、鈴木恵美子

[和歌山] 脱原発わかやま、寺井拓也、内海洋一、田中美津子、上平正子、泉 正、

[島根] 島根原発増設反対運動、島根原子力発電所3号機の運転をやめさせる訴訟の会、芦原康江、阪本 清

[岡山] 小林秀朗

[広島] 原発はごめんだヒロシマ市民の会、市民SOHO蒼生舎、みどり福山、ヒロシマ・エネルギー・環境研究室、木原省治、溝田一成、脊尾昌弘、さとうしゅういち、坂田光永

[山口] 原発いらん！山口ネットワーク、三浦翠、小畑太作、上里恵子、山戸貞夫

[愛媛] 阿部悦子と市民の広場、原発さよなら四国ネットワーク、原発さよならえひめネットワーク、原発なしで暮らしたい松山の会、愛媛の活断層と防災を学ぶ会、放射能を憂慮する市民の会、農薬空中散布に反対する会、愛媛環境ネットワーク、伊方原発反対八西連絡協議会、八幡浜・原発から子供達を守る女の会、伊方原発をとめる会、阿部悦子、小倉 正、垂水正和、垂水栄子、近藤 誠、大野恭子、渡部伸二、古茂田知子、土居立子、大本光子、井出久司、松尾京子、谷口博徳、斉間淳子

[高知] 植村和暢、植村厚子、松本高子、

[福岡] 荒木龍昇、足立力也

[長崎] 歌野礼、歌野敬、歌野啓子、森崎竜一

[宮崎] 宮崎の自然と未来を守る会、青木幸雄、鶴内敏之、小川渉、日野原義文

[鹿児島] ピース・アクト出水、天文館アトムズ、川内原発建設反対連絡協議会、川内つゆくさ会、まちづくり県民会議、川内原発活断層研究会、反原発・かごしまネット、まちづくり県民会議、東電福島原発事故から3年一語る会、さよなら原発：アクションいぶすき、原発ゼロをめざす鹿児島県民の会、かごしま反原発連合有志、ささえあいネットATLAS、荒武重信、有馬和子、安藤成子、小川 彰、小川美沙子、川畑一勝、北島清仁、小藺元子、小原治代、城 眞理、城下義博、嶽釜百合子、田中ひろみ、佃美喜子、外山一正、道免明子、鳥原禧一、鳥原良子、鳥原雅子、中俣貞子、馬場園征子、福丸のり子、堀之内しおり、松田勝美、松田良子、松山喜美子、三園敏則、武藤智子、村田明子、森永明子、山下勝次、山下美紀、若松静美、赤星悠子、井ノ上利恵、杉原洋、橋爪健郎、松元成一、向原祥隆、山中六江、福島直子、永池美穂、鮫島亮二、さめしまことえ、鮫島曜、鮫島乃絵、のぐち英一郎、八木純子、大久保文子、福崎富実子、福崎結子、今村重喜、凶師博隆、橋野裕明、馬場慶郎、前園啓子、西藺典子、増尾良子、坂下孝、川路孝、徳満正守、池畑浩、松永明敏、松永三重子、道免芳隆、道免明美、中村進一、中村忍、中村一義、鳥越勇夫、平鉄臣、鳥田義輝 塚田ともみ、梅北優香、園山宗光、赤星秀一、有村晋治、永田知一、上山志津子、野口明香、室屋亜希子

**連絡先：若狭連帯行動ネットワーク**

久保 TEL 072-939-5660 dpnmz005@kawachi.zaq.ne.jp

長沢 TEL 072-269-4561 ngsw@oboe.ocn.ne.jp